



ラグーめし食おう隊（春日市商工会）

◆立ち上げ

実行委員会専門員会議において、RWC 2019開催前に春日市商工会加盟店が春日市を盛り上げていこうという趣旨で企画されました。

公認チームキャンプを実施する国の食を提供することで、市民の国際理解を推進すること、また、大盛もしくは高たんぱくの食事（ラグーめし）を提供することでラグビーを身近に感じてもらうことを目的としました。

◆事業内容

【期間】（3回に分けて実施）

第1回 7月22日～7月28日

第2回 8月19日～8月25日

第3回 9月 9日～9月15日

【周知】

チラシを作成し、市内各所で配布するとともに、SNSを活用しPRを行いました。

【実施店舗】

春日市商工会加盟飲食店延べ54店舗



◆成果

参加店舗ごとに趣向を凝らしたメニューを提供し、市民の国際理解の推進やラグビーを身近に感じてもらうという当初の目的は達成されました。また、実施店舗には、RWC 2019のポスターを掲示し、大会機運の醸成を図ることができました。

約2,700人が本イベントに参加し、チラシを見て新規客が訪れるなど、参加店舗にも一定の事業効果がありました。



牛さがりロッシーニ風



ホームさんこだわりカツカレー



骨折り餃子 10 人前

春日エリアの飲食店が「ラグーめし」でがっつりスクラム!!
アイルランド・フランス・カナダのグルメ企画

春日
ラグーめし
食おう隊!!

アイルランド・フランス・カナダ、そして「ボリューム」や「ラグビー」をテーマに、春日市の各店舗がオリジナル「ラグーめし」にトライ!!

3回 / に分けて実施!

第一回
7月22日(月)~28日(日)

第二回 8月19日(日)~8月25日(土)
第三回 9月9日(日)~9月15日(土)

ラグーめしを注ぎ、Twitter・Facebook・Instagramに写真を投稿して、春日ラグーめし食おう隊と「ラグーめし」を付けて、ラグーめしの写真を投稿して、その場で1,000円分の食事券が当たる三角くじにチャレンジ!

キャンペーン期間中
ハイネケンがお得に飲める!

期間中はハイネケンビール等がお得な料金を提供されます!

さらに キャンペーン期間中、参加店舗ごとに限定特典あり!

主催：春日ラグーめし食おう隊
協力：春日市商工会

春日市 春日1-1-1 春日中央公民館 春日市 春日1-1-1 春日中央公民館
TEL 0963-922-2676 (受付 10時~18時)
Facebook: https://www.facebook.com/springcity/



春日市民図書館講演会

◆講演会「ラグビーの魅力とラグビー観戦の楽しみ方」

RWC 2019を盛り上げていくため、春日市民図書館の主催で講演会が開催されました。(株)ベースボール・マガジン社ラグビーマガジン編集長の田村一博氏を招き、市長との対談や参加者約80人と質疑応答を交えながら、ラグビー未経験者にも伝わるようにラグビーの魅力と観戦のポイントを語っていただきました。

【期日】 2019年7月7日

【会場】 春日市ふれあい文化センター



ラグビーの魅力を語る田村一博氏



チームの足跡（カナダ代表）

カナダ代表は、北米で唯一RWC全大会に出場している強豪チームです。2018年11月の敗者復活予選を全勝で勝ち上がり、RWC2019出場20チームの最後の一枠を勝ち取りました。最終成績はプール戦最下位となりましたが、岩手県釜石市での最終戦が台風で中止となった後、災害復旧ボランティア活動を行い、全世界から称賛を受けました。

◆歓迎イベント

～Maple Leafs in Kasuga～

【期日】2019年9月25日

【会場】春日市総合スポーツセンター

【選手】

カイル・ベイリー、フィル・マック、シェーン・オーリアー、テイラー・パリシ、アンドリュー・クワトリン、コナー・トレイナー

【スタッフ】

ギャレス・リーズ（メディアマネージャー）



和太鼓演奏

市民約650人がカナダ代表を歓迎しました。イベントは、春日太鼓保存会の和太鼓演奏に始まり、春日リトルラガーズクラブと選手とのタグラグビー対決、春日中学校生徒の英語によるQ & Aで交流を深め、最後には会場全員でカナダ国歌を合唱しました。選手からは「太鼓の演奏に感動した」「多くの人が集まってきて驚いた。たくさんの国旗を振ってくれてとても嬉しかった」などの声が聞かれました。スタッフによると、イベントに参加した選手が、他の選手にイベントの様子を嬉しそうに話して聞かせる姿も見られたそうです。また、イベント内で記念品として手渡した市オリジナルの法被は、チーム内で取り合いになるほど人気を集めたため、後日、追加で6着進呈しました。



タグラグビー対決



カナダ代表を歓迎する参加者たち

◆練習の公開

歓迎イベントなどに代表される市民の歓迎ムードや、良好な練習環境がチームから好評を得て、以前から交渉していた練習の公開が急ぎよ了承されました。公開練習の2日前の夕方に正式決定し、市ウェブサイトや総合情報メールなど広報手段は限定されたものの、当日は約2千人の市民が訪れました。多くの市民が集まったことは、チームから大変喜ばれ、練習は、市民に近いところで場所を変えながら行われました。「多くの市民が近くで練習が見られるように」というカナダ代表の粋な心遣いでした。

練習終了後には、グラウンド内でサインや写真撮影の時間が設けられ、多くの市民が選手と交流しました。

近隣の渋滞や駐車場の混雑、会場の混乱などを懸念していたものの、チームとの綿密な打ち合わせやスポーツボランティア、関係者の協力により、トラブルなく終えることができました。



来場者にサインするタイラー・アードロンさん

カナダ代表からのメッセージ



RWC出場チーム初の女性チームマネージャー
アラナ・ゲッティンガーさん

多くの市民の方々と交流できてうれしかったです。また、対イタリア戦は、春日市の皆さんの声援のおかげで、まるでホームゲームのようでした。そして、準備の行き届いた施設、ボランティアの支援も最高でした。試合に向けた良い準備ができました。本当にありがとうございました。



メディアマネージャー ギャレス・リーズさん

春日市の皆さんからの素晴らしいおもてなしにありがたい気持ちでいっぱいです。歓迎イベントも素晴らしく、ボランティアを含め、携わってくれた皆さんに感謝しています。春日市は、われわれにとっては是非また戻ってきたいと感じさせてくれる場所でした。



キャプテン タイラー・アードロンさん

春日市の全ての子どもたち、ありがとうございました！応援に来てくれた方、サポートしてくれた皆さん全てに感謝しています！



チームの足跡（アイルランド代表）

アイルランド代表は、2018年ラグビーシックスネ이션ズでは圧倒的な強さで優勝しました。また、大会開幕直前にはワールドラグビーのランキング第1位となり、優勝候補として大会に乗り込みました。日本と同じプールAを突破し9大会連続出場・7度目の決勝トーナメント進出となったものの、またも準決勝の壁は破れませんでした。

一方、アイルランドに対するイメージは、地理的な条件などからあまりなじみのないものですが、公認チームキャンプでの交流によって、同国への関心が非常に高まりました。

◆大使の来訪・セミナー開催

駐日アイルランド大使館・ポール・カヴァナナ大使が、市長・市議会議長を表敬訪問しました。併せて、アイルランドに関するセミナーを議会棟議場で開催しました。セミナーでは生徒が英語で質問するなど活発に意見交換が行われ、アイルランドへの理解と親しみが一気に深まりました。

【期日】 2019年7月25日

【来訪者】 ポール・カヴァナナ大使、
オウエン・フラビン領事



「WELCOME TO IRELAND - アイルランドへようこそ」

◆アイルランド代表の小学校訪問

大会期間中、チームは春日東小学校を訪れました。会場となった春日東小学校の6年生約140人は、応援メッセージボードをつくとともに、選手への英語での質問、ラグビーの練習、アイルランド代表チームの応援歌「アイルランズ・コール」の合唱で交流を深めました。

【期日】 2019年10月11日

【選手】

ジャック・カーティ、ジョーディ・マーフィー、ショーン・クロニン、クリス・ファレル、ロブ・カーニー、ギャリー・リングローズ、リース・ラドック、ジョーン・ライアン
【スタッフ】

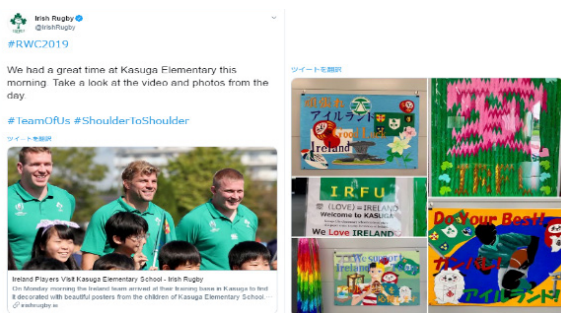
ポール・ディーン（チームマネージャー）、
デイビッド・オシオコン（メディアマネージャー）、
シネード・ベネット（オペレーション）



肩を組み合唱する選手と子どもたち

◆国内外からのメディアによる取材

強豪アイルランド代表へは、国内外メディアの取材が殺到しました。主要新聞社、大会キー局であるNHK、FBSはもとより、BBC（イギリス）、RTÉ（アイルランド）、World Rugby TVなど国外メディアも取材し、その映像は、全世界に配信されました。また、アイルランドラグビー協会の公式ツイッターでは、選手・スタッフのインタビューとともに練習グラウンドやトレーニングジムでの選手の様子、春日東



アイルランドラグビー協会 Twitter

小学校への訪問では児童約140人と選手8人が円陣となり「アイルランズ・コール」を合唱する様子が配信されました。



子どもたちにサインするロブ・カーニー選手



選手と一緒にパスの練習をする子どもたち



チームの足跡（フランス代表）

フランス代表は、9大会連続9度目のRWC出場を果たし、華麗なパス回しは「シャンパンラグビー」と呼ばれ、これまで準優勝3度の強豪国。春日市では、10月1日から3日までキャンプを実施する予定でしたが、台風18号の影響によりトレーニングは行われませんでした。10月2日の博多の森球技場でのアメリカ戦は33対9で勝利しました。会場には春日市から多くの市民が応援に駆け付けました。



フランス代表対アメリカ代表戦の様子



タグラグビーの普及

タグラグビーとは、15人制ラグビーからタックルなどの接触プレーを無くしたボールゲームです。性別や年齢を問わず、誰でも安全に楽しむことができます。プレーヤーは、腰にベルトを着け、両腰に「タグ（ビニール製のリボン）」を着けてプレー。相手のゴールラインにボールを持ち込んで置くことで点が入ります。他のボールゲームと大きく違う点は、楕円球を抱えて自由に走り回ることができることです。得点が入りやすく、全てのプレーヤーが活躍でき、攻守とも運動量が豊富で、走る爽快感を存分に味わえるなどの特徴があります。個人技よりもチームプレーが重要なゲームで、全員がプレーに参加しやすくなっています。

春日市は、より多くの市民にラグビーの魅力を伝え、ラグビーを通じてスポーツの素晴らしさを感じてもらうため、保育所の園児、市内の小学4・5年生、自治会役員を対象に、すべての年代でタグラグビー教室を実施しました。タグラグビーの指導には、福岡を拠点とするラグビーチームの九州電力キューデンヴォルテクス、コカ・コーラレッドスパークス、宗像サニックスブルースに協力していただきました。

小学校学習指導要領でも例示され、注目が高まるタグラグビー。何より、協力する大切さ、相手を思いやる気持ち「ワンフォーオール・オールフォーワン」や試合終了後の「ノーサイドの精神」など、ラグビー独特の素晴らしい文化が根付いていくことを願っています。



大谷小学校



須玖小学校



春日北小学校



自治会連合会実務者研修



天神山小学校



日の出小学校



春日南小学校



昇町保育所



トレーニングフィールドを体感

◆HADASHIでSHIBAFU

白水大池公園多目的広場の芝生の整備が順調に進み、組織委員会からも高い評価を得たことから、青々と鮮やかに育った芝生を裸足で直に感じるイベントを開催しました。国際基準を満たす13メートルのゴールポールのもと、女子小中学生によるラグビーエキシビジョンマッチ、水鉄砲バトル、おもしろラグビー体験などで、約400人の市民が参加し芝生の感触を楽しみました。また、イベントの運営には、九州電力キューデンヴォルテクスOB、春日リトルラガーズクラブ、スポーツボランティアの協力をいただきました。

【期日】 2019年7月7日

【会場】 白水大池公園多目的広場

【内容】

- 1 開会セレモニー
- 2 第一部 女子小中学生によるラグビーエキシビジョンマッチ、多目的広場の愛称発表
- 3 第二部 スポーツ体験（おもしろラグビー体験、水鉄砲バトル、ニュースポーツ体験、バブルボール）



水鉄砲バトル



おもしろラグビー体験



バブルボール



参加者全員で集合写真



ニュースポーツ体験

◆ラグビークリニック in 春日

山口県長門市と春日市がカナダ代表の公認チームキャンプ地となったことで、長門市の7人制女子ラグビーチーム「ながとブルーエンジェルス」が訪れました。春日リトルラグーズクラブをはじめ、小学生から高校生まで約30人が参加し、ラグビークリニックを行うとともに、ラグビーと英語を通じた国際交流を図りました。子どもたちは積極的に質問するなど夢中で取り組み、「話し合いやコミュニケーションを重視することで、パスが正確に回せるようになった」と成長を実感していました。

【期日】 2019年7月26日

【会場】 白水大池公園多目的広場

【指導者】 エドウィン・コッカー（元7人制ニュージーランド代表主将）、ヘーゼル・トゥビック（女子15人制RWC優勝メンバー）、小野ゆき（7人制ニュージーランド州代表）、ワイシア・ナスウング（リオ五輪金メダリスト・現7人制フィジー代表）、村杉徐司、辻崎由希乃



パスの練習をする女子中高生たち

◆白水大池公園多目的広場一般開放

10月14日にアイルランド代表のキャンプが終了したため、チームが使用した練習グラウンドとトレーニングジムを一般開放しました。トップアスリートに対応した本格トレーニング機器やスクラムマシーンを展示し、アイルランド代表の練習風景の動画を上映しました。

【期日】 2019年10月20日

【会場】 白水大池公園多目的広場



チームが使用したトレーニングジム

多目的広場の愛称が 「KASUGAスクラムパーク」に決定!

リニューアルした白水大池公園多目的広場をより親しみやすいものとするため、愛称を募集しました。

採用された「スクラムパーク」をお寄せいただいた札幌市・朝倉修さんと東京都・中塩由美さんには、賞状とRWC2019サポーターボール（アイルランド・カナダ）を贈呈しました。応募総数115件。応募いただいた皆さん、ありがとうございました。



採用され喜ぶ中塩由美さん



オリジナルPRグッズ



公認チームキャンプ地マークと市章は必須事項。
 ワールドラグビーの精神である、
 品位・情熱・結束・規律・尊重をイメージした5色
 (緑・赤・黄・青・紫)の大会ユニバーサルグラフィック
 や、レンジーと大会ロゴマーク、国旗などを配置し、
 印象に残るデザインを意識しました。



コラボ缶バッジ

まさに一生に一度しかできない、
 大会公式マスコット「レンジー」
 と、かすがくん・あすかちゃんの
 レアコラボレーション。



ステッカー

アイルランド代表がキャンプ
 地に決定した時に作成。全小
 中学生、イベントで配布。



ピンバッジ



イベント、市役所窓口で着用。
 カナダ代表に1着プレゼントしたら、
 もっと欲しいとリクエストがありました！

法被



帽子

「SCRUM KASUGA」へ
ポロシャツとともに配布。
スクラムを組んだ人とスポーツ
ボランティアの精神をイメージ。



テーブルスカート

ポロシャツ



アイルランドと市のカラー【フォレスト】、
カナダとフランスのカラー【バーガンディ】。
チームキャンプマークは白黒で存在感を出し、
背面には大会ロゴタイプ。市章は日本特有の
家紋の配置に。大会終了まで毎週火・金曜日に
全職員が着用しました。



ポスター&チラシ

カナダ代表の歓迎イベントでは、ポスターに
掲載したコーナー・トレーナーさんがポスター
と写真を撮っていました。
チームマネージャーさんは選手が写っている
からとポスターを持って帰られました。



【デザイン担当：影田 奈都美】



小中学校で歓迎 中学生 応援メッセージボード

公認チームキャンプ実施国を歓迎し、また応援の意を表するため、市内全中学校の美術部がメッセージボードを制作しました。

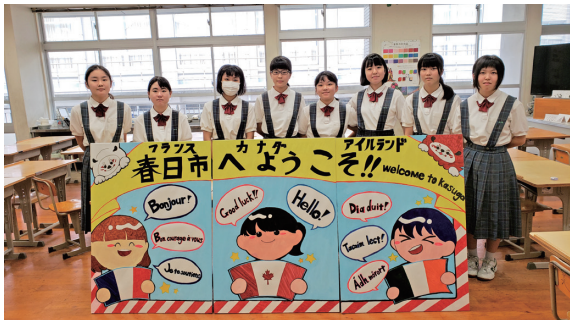
9月2日から20日まで市役所1階アトリウムに展示し、キャンプ期間中はトレーニングジムやチームルームに展示しました。趣向を凝らした作品たちに、各チームの皆さんも大変喜んでいました。

賞	学校名	
会長賞	春日東中学校	①
かすがくん賞	春日野中学校	②
あすかちゃん賞	春日北中学校	③
優秀賞	春日南中学校	④
優秀賞	春日西中学校	⑤
優秀賞	春日中学校	⑥

①



③



⑤



②



④



⑥





小中学校で歓迎 小学生 折り鶴 (アート)・会場応援・学校給食

◆折り鶴 (アート)

市内の小学生が公認チームキャンプ実施国を応援するために、折り鶴を折ってくれました。その折り鶴を使ってスポーツボランティア「SCRUM KASUGA」と一緒に千羽鶴やウェルカムボードを作成し、キャンプ期間中はトレーニングジムやチームルームに展示しました。

アイルランド代表は、アイルランドラグビー協会のツイッターに写真を掲載し、「素敵なポスターをありがとう。しかもトレーニングジムで見ることができるなんて素敵でした」とメッセージをくれました。



【カナダ】

WELCOMEの文字と国旗を主体に楓の葉は鶴を前面に配置して表現。



【アイルランド】

国のカラーであるグリーンを地に愛蘭土という漢字表記から愛の一文字とIRFUを優勝祈願として金の鶴で表現。



【フランス】

WELCOMEの文字と国旗を主体に配置して表現。

◆会場応援

RWC2019福岡会場観戦招待事業として、天神山小学校の5年生と日の出小学校の6年生が、9月26日のイタリア代表対カナダ代表の試合を観戦しました。子どもたちは、カナダ国旗を振りながら、元気いっぱい応援し、カナダ代表は、試合終了後、真っ先に小学生の観覧席側に来て、応援のお礼にお辞儀で応え感動を与えてくれました。その場にいた小学生にとって、その名のとおり、一生に一度の忘れられない体験になりました。



カナダ代表を応援する子どもたち

◆学校給食で国際理解

大会開催に伴い、市内の小中学生に食を通じて国際理解を深める目的で、アイルランド、フランス、カナダの3カ国の料理を給食で提供しました。

【9月18日小学校給食献立】



(アイルランド料理)
牛乳、山型パン、スパニッシュオムレツ、コルカノン、ギネスシチュー、オレンジ

【10月3日中学校給食献立】



(フランスとカナダ料理)
ご飯、鮭のクリームソース、メイプルポテト、ポトフ、牛乳



パブリックビューイング

◆県営春日公園 球技場前芝広場

ホスト国の日本代表対世界ランキング2位（当時）のアイルランド代表の試合を応援しようとパブリックビューイングを開催しました。

実行委員会からは、210インチのトラックビジョンと最大200人が収容できる巨大全天候型テントなどをレンタルで提供しました。参加者は、ビール片手に各地の料理を食べながら観戦することができました。

試合は、アイルランド代表がトライをあげリードするも、日本代表がペナルティキックを確実に決め僅差で追う展開となりました。時折強い雨が降る中、日本代表の勝利を信じて多くの市民でにぎわいました。

また、スポーツボランティア「SCRUM



アイルランド代表の旗を振って応援

KASUGA」のメンバーが両代表の応援フラッグを来場者に配り、会場の盛り上げに一役買いました。

【ゲスト】 向井昭吾（コカ・コーラ レッドスパークス監督・元日本代表監督）

【司会】 信川竜太（DJ）

◆春日市役所 議会棟議場

初めての試みとして、議会棟議場でパブリックビューイングを開催しました。市民の皆さんは、日ごろ入ることのない議場の議席や傍聴席で、アイルランド・フランス・カナダ代表の試合を熱心に応援しました。

【司会】 米倉直道、柳沢大貴、藤野頌子（市職員）



議場でカナダ代表を応援

日時	対戦カード	来場者数	会場
9月26日 16:45～	イタリアvカナダ	約100人	議会棟議場
9月28日 16:15～	日本vアイルランド	約300人	春日公園 球技場前芝広場
10月2日 16:45～	フランスvアメリカ	約50人	議会棟議場
10月19日16:15～	イングランドvオーストラリア	約100人	
10月19日19:15～	ニュージーランドvアイルランド		



つくしラグビーフェスタ2019

【期日】 2019年9月28日

【会場】 県営春日公園球技場前芝広場

「ラグビーをまちのエネルギーに！」を合言葉に、つくしJC主催でつくしラグビーフェスタ2019が開催されました。当日はコカ・コーラレッドスパークス、九州電力キューデンヴォルテクスによる

ラグビー実演や体験コーナー、Fukuoka Dandelion による車いすラグビーの紹介、九州を拠点に活躍するアイドルグループ LinQ の公演などが行われました。

当日は、2千人を超える人で賑わい、同日同会場で行われたパブリックビューイングも、大変な盛り上がりとなりました。



車いすラグビーでぶつかりあう子どもたち



ラグビー体験コーナー



ラグビー実演



福岡春日シーキャッツの体験コーナー



会場には多くの来場者が



スポーツボランティア「SCRUM KASUGA」

◆スポーツボランティアとは

自主（自発）性、公益（社会、公共）性、無償性を原則とし、スポーツという文化の発展のために金銭的報酬を期待することなく、自ら進んでスポーツ活動を支援する人（活動）のこと。

スポーツを支えることで、多くの人々が交わり共感し合い、社会の絆が強くなっていきます。スポーツを支える活動は、地域のスポーツ団体の運営や監督・コーチなどの指導活動、スポーツイベントの運営など多岐にわたります。地域のスポーツ活動を推進していく上で、スポーツを支える人材はなくてはならない存在です。

本市においては、スポーツを支える人材の育成や活躍の場の確保に取り組むことで、地域のスポーツ活動を通して多くの市民が交流し、共感し合う絆の強いまちを目指します。

◆研修（学び）

<2018年度研修会>

- 【第1回】スポーツボランティアの基礎
講師：久留米大学 人間健康学部 スポーツ医科学科 准教授 行實鉄平氏
- 【第2回】アイルランドの文化について
講師：日本ケルト協会代表 山本啓湖氏
- 【第3回】スポーツボランティアの新しい扉
講師：日本スポーツボランティアネットワーク事務局長 但野秀信氏



第1回研修会の様子

<2019年度研修会>

- 【第1回】
○スポーツボランティアのやりがいや楽しみ方
講師：日本スポーツボランティアネットワーク 慶田花英太氏、高尾都茂子氏
- 【第2回】
○トップアスリートに聞くスポボラ
講師：元コカ・コーラレッドスパークス選手 豊田将万氏
○ボランティアと安全管理
○やさしい英会話
- 【第3回】
○グループ別顔合わせ、リーダー決め
- 【第4回】
○現地確認、実際のボランティア活動での留意点など

◆実践

<イベント運営>



HADASHIでSHIBAFUイベントのサポート



JR春日駅でのパブリックビューイングのピラ配り



アイルランド代表の春日東小学校訪問のサポート



ながとブルーエンジェルスによるラグビー教室のサポート



カナダ代表歓迎イベントでの通訳



ラグビーフェスタ2019の運営サポート

<キャンプ地運営>



ゴールポールの設置作業



カナダ代表の公開練習の警備



アイルランド代表の見送りに駆けつけてくれたスポーツボランティアの皆さん

SCRUM KASUGAは、前年度は28人。2019年度は83人。高校生から70歳代まで、幅広い年齢層が集まりました。全員ユニフォームを統一し、活気あふれる雰囲気、老若男女問わず仲良くなり、「ONE TEAM」となって活動でき、みんな一生に一度の素晴らしい経験ができたと思います。ボランティアの皆さんのおかげで、事故など何も起こらず、イベントが成功し、チームも練習に集中することができました。代表チーム出発の際には荷物搬出や見送りにボランティアの皆さんが駆けつけてくれました。

アイルランド代表からは、「これまでのキャンプ地の中で一番良くしていただきました。感謝しています」とうれしい言葉を頂きました。

今回のRWC2019の盛り上がりとともに、スポーツボランティアへの理解、関心が深まりました。今後のスポーツボランティアへとつなげていければと思います。 (J)



RWC 2019日本大会を振り返る

アジアで初めて開催されたRWC 2019日本大会は、南アフリカが史上最多に並ぶ3回目の優勝を果たし、1カ月半にわたる激戦の幕を閉じました。開幕前の予想を大きく上回る盛り上がりを見せたワールドカップ。北海道から九州まで、全国12の試合会場は、いずれもほぼ満員の観客で埋まりました。予選から決勝までの観客動員数は延べ170万4,443人、1試合の平均観客数は37,877人。横浜国際競技場で行われた決勝のイングランド代表対南アフリカ代表戦は70,103人。これは同会場の歴代最多動員数を記録しました。試合会場だけではなく、全国16カ所に設けられた公式ファンゾーンには、およそ114万人の観客が訪れ賑わいを見せました。チケットの販売数は、約184万枚。これらの実績は、この大会が、日本国内はもとより世界中から高い関心を集めたことを示しています。

◆日本が初のベスト8入り

1987年から始まり9回目を迎え、その全てに出場してきた日本代表でしたが、前々回2011年の第7回大会までの成績はわずか1勝。転機となったのは、前回2015年のイングランド大会。ブライトンの奇跡と言われた南アフリカ戦を含め、RWC初の予選リーグ3勝をあげました。そして、今大会は、「ONE TEAM」を合い言葉にさまざまな出身の選手たちが一つになって、優勝候補と言われたアイルランド代表を破るなど予選プール4戦を全勝で終えて悲願のベスト8進出を達成しました。

◆ラグビーの持つ「品位・情熱・結束・規律・尊重」

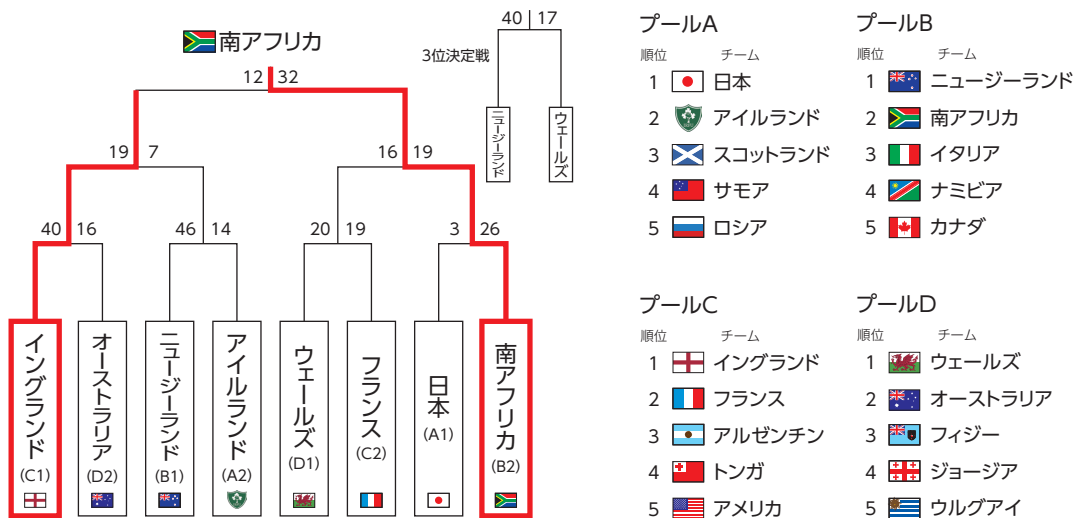
今大会では、ラグビーの基本原則がさまざまな場面で具現化され、ラグビーの試合の魅力とともに、選手の振る舞いも多くの人々の心を捉えました。「ノーサイドの精神」。選手たちは、試合中どんなに激しく身体をぶつけ合っても、ノーサイドの笛が鳴れば互いの健闘を称え合い握手を交わします。また、多くのチームが観客席に向かって試合後にお辞儀をするという姿も見られました。さらには、台風通過後に行われた全ての試合で開始前に黙とうが捧げられ、岩手県釜石市の試合が中止となったカナダ代表は、これまでの応援に対する感謝を示そうと、被災地の災害復旧ボランティアに参加しました。

◆大会キャッチコピー

「4年に一度じゃない。一生に一度だ。- ONCE IN A LIFETIME -」



◆チーム成績



◆ワールドラグビー ビル・ボームト会長コメント

RWC 2019は、最高の大会の1つであり、私たちが愛するラグビーに新たな観客をもたらしたという点で非常に画期的でした。全世界のラグビーファンを代表して、このような素晴らしく、謙虚で、歴史的なホスト国であった日本と日本人に、心の底から感謝したいと思います。南アフリカ代表は傑出したラグビーを続け、ウェブ・エリス・カップを掲げるにふさわしいチームでした。そして、日本代表の驚くべきパフォーマンスも、間違いなく大会の最も記憶に残る瞬間でした。台風ハギビスという非常に困難な災害に対する日本の対応は、この素晴らしい国の人々の回復力と復興への決意の表れであると感じます。われわれは、この悲劇的な出来事の影響を受けた全ての人々について思い続けています。最後に、RWC 2019が記憶に残る大会であるために全力を尽くした全20チームと関係者の皆様へ感謝したいと思います。日本大会はさまざまな意味で記録を破り、ラグビーの印象を劇的に変えたのです。

◆RWC 2019で話題になったこと

- ・カナダ代表は台風で試合中止になったものの、釜石に残り災害復旧のボランティア活動に従事し全世界から絶賛されました。
- ・日本代表の応援ソング「ビクトリーロード」がファンにもお馴染みに。
- ・「ジャッカル」「にわかファン」「4年に一度じゃない。一生に一度だ」「笑わない男」「ONE TEAM」が流行語大賞にノミネート。流行語大賞は「ONE TEAM」に。
- ・「ノーサイドの精神」が広まり、ラグビーやスポーツの素晴らしさを改めて認識。
- ・日本代表がアイルランド代表を撃破するなどプール戦4勝で悲願のベスト8へ。
- ・南アフリカ代表初の黒人キャプテン、シヤ・コリシが優勝杯ウェブ・エリス・カップを掲げました。
- ・W杯が終わり「ラグビーロス」になる人が続出。



総括表

2018年度											
4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
RWC2019公認チームキャンプ地・春日市実行委員会											
				準備会議 8/2	設立総会 9/29						
				実行委員会による事業・イベント	【2018年度事業】 ① ロゴ入りPRグッズ制作 ステッカー（市報折込） ② ロゴ入りPRグッズ制作 缶バッジ ③ 白水大池公園他目的広場愛称募集 全国から応募115件 “KASUGA スクラムパーク”に決定。						
<div style="border: 1px solid black; width: 100%; height: 20px; margin-top: 10px;"></div>											
キャンプ地 内定！		春日市ラグビーワールドカップ2019公認チームキャンプ地実施本部（2018.7.8～2019.12.31） 各部から支援職員として、RWC期間中は会場総務、会場整理、広報、チームサポート、PVなどに延べ105人									
施設改修・仮設設置等（2019年） ①管理棟改修工事 ～6/30、②芝生改良 4/8～（キャンプ実施まで）、③13mゴールポール設置 5/15、④仮設*設置 む。） 10/22～11/22 *トレーニング室、医務室、更衣室、倉庫、目隠しフェンス、撮影台、⑤トレーニング機器 ～											
シティ・ドレッシング（2019.8.30～大会終了） のぼり旗、懸垂幕、横断幕などを市庁舎、市施設（スポーツ施設は除く。）、公民館、学校に掲出した。キャンプ実施中は、滞 会場に掲揚した。											
パブリック・ビューイング(PV) 9/26 ITA v CAN（議場・約100人）、9/28 JPN v IRE（春日公園・約300人）、10/2 FRA v ENG v AUS & NZL v IRE（議場・約100人）											
"Twitter" 始めました。 ラグビーとその周辺情報の発信ツールとして、ラグビー事務局が2019											
めざせスポーツボランティア！ラグビーワールドカップ2019前年講座（県補助事業） ① 受講者：26人 ② 研修：9/2 スポーツボランティアの基礎（久留米大・行實准教授）、10/8 スポボラ体験（ス ポーツフェスタ）、12/9 アイルランド文化（日本ケルト協会・山本代表）、2/3 スポボラの新しい扉 （JSVN・但野事務局長）、その他 春日市スポーツ推進基本計画の学習、オフ会を実施											春日 ① ② ③ チーム ④

2019年度

4月 5月 6月 7月 8月 9月 10月 11月 12月 1月 2月 3月

ラグビーワールドカップ2019 9/20-11/2

年次総会

5/25

合同会議

8/31

最終総会

12/14

【2019年度事業】

- ① ラガーめし食おう隊（商工会有志 7月～9月・2,700食）
- ② タグラグビー教室（各小学校 5月～9月 九州電力キューデンヴォルテクス、コカ・コーラレッドスパークスが協力）
- ③ 応援メッセージボードコンテスト（各中学校）→ トレーニングジムに掲示したところチームがSNSで全世界発信
- ④ プレゼント用折り鶴作成（各小学校 8,200羽がアートに）→ 完成後、チーム控室などに掲示。SNSで発信
- ⑤ 小学生会場応援 9/26 イタリアvカナダ（天神山小、日の出小から約200人の児童がカナダを応援）
- ⑥ 白水大池 HADASHIでSHIBAFU（7/7 九州電力キューデンヴォルテクスが協力・約400人参加）
- ⑦ 長門市女子ラグビーチームNBAとの交流（7/26 選手3人、コーチ等4人が来訪、女子選手 約30人が参加）
- ⑧ 自治会連合会実務者研修「スポーツと健康管理」（8/29 宗像サニックス・ブルースが協力）
- ⑨ 地域交流イベントやボランティア活動への支援（記念品贈呈やケータリングの提供）
- ⑩ 会場応援（福岡開催3試合）
- ⑪ 白水大池公園多目的広場愛称ロゴマーク制作
- ⑫ つくしラグビーフェスタ（9/28 春日公園 パブリックビューイングを後援、機材及びテントの費用負担）
- ⑬ 多目的広場、トレーニング施設の一般公開（10/20 約300人が利用、見学）
- ⑭ 記念誌

全庁組織
従事した。

公認チームキャンプ 9/22-10/14 (CAN 9/22-9/30、FRA 10/1-10/3、IRE 10/4-10/14)
組織委員会とのキャンプ地契約：～12/末

最終成績：ベスト8 IRE、FRA、予選敗退 CAN

工事 6/24～8/31、同解体工事（芝生再生を含む）
10/21

キャンプ期間中の使用実績

CAN：4日、FRA：使用せず、IRE：5日
※プール、スポセン使用せず。

招待イベント参加

- ① ウェルカムパーティー
- ② トーナメントゲスト観戦

在国の国旗（協会旗）を市庁舎及び練習

USA（議場・約50人）、10/19

3年1月から開設した。フォロワー数247

地域交流イベント（大会前～大会期間中）

アイルランド IRE

7/25 大使表敬訪問&セミナー（議場）【参加142人（中学生を含む。）】

10/11 アイルランド"学校訪問"（春日東小）【限定公開・同校6年生約140人】

カナダ CAN

9/25 "Maple Leafs in Kasuga"（スポセン）【一般公開・参加約650人】

9/29 "公開練習"（白水大池公園多目的広場）【一般公開・観覧約2,000人】

市スポーツボランティア "SCRUM KASUGA"

登録者：83人（高校生を含む。）

研修：6/15 基礎研修、6/30 講話・安全管理、7/28 業務研修、9/15 現地研修、10/20 意見交換会

実績：運営支援（キャンプ地、地域交流イベント、パブリックビューイング(PV)）、PV周知ピラ配り、キャンプ実施の荷物の搬出入など、延べ307人回の活動。

特長：統一ユニフォーム、帽子及び名札の着用、スケジュール調整に Lineを活用



関係者名簿

● 実行委員会

(敬称略)

No.	役職名	所属団体等名	職名	氏名
1	会長	春日市	市長	井上 澄和
2	副会長	春日市議会	議長	金堂 清之 (2018年度) 松尾 徳晴 (2019年度)
3	副会長	春日市自治会連合会	会長	秋枝 恵美
4	副会長	(一社) 春日市体育協会	会長	城田 正博
5	副会長	春日市商工会	会長	吉岡 統三
6	顧問	福岡県議会	議員	中牟田 伸二
7	顧問	福岡県議会	議員	松尾 嘉三
8	顧問	福岡県ラグビーフットボール協会	理事長	松岡 英雄
9	参与	春日市	副市長	後藤 俊介
10	参与	春日市議会	副議長	竹下 尚志 (2018年度) 岩切 幹嘉 (2019年度)
11	参与	春日市教育委員会	教育長	山本 直俊
12	委員	春日市スポーツ少年団	本部長	中谷 純子
13	委員	(一社) つくし青年会議所	理事長	友石 淳
14	委員	筑紫医師会 (春日医師団)	病院長	松村 順
15	委員	春日市文化協会	会長	別府 正紀
16	委員	春日市健康づくり推進協議会	会長	瓦田 裕二
17	委員	春日市スポーツ推進審議会	会長	照屋 博行
18	委員	春日市スポーツ推進委員会	委員長	森山 善彦
19	委員	春日市社会福祉協議会	会長	友廣 英司
20	委員	春日市民生委員児童委員協議会	会長	石橋 壯児
21	委員	春日市立中学校校長会	会長	古澤 裕二 (2018年度) 大森 制也 (2019年度)
22	委員	春日市立小学校校長会	会長	丸山 晴幹 (2018年度) 水上 雅義 (2019年度)
23	委員	春日市私立幼稚園連盟	会長	白水 剛
24	委員	春日リトルラグーズクラブ	代表	井村 仁志
25	委員	NPO法人春日イーグルス	会長	渡邊 透
26	委員	春日市ラグビー協会	顧問	松本 弘樹
27	監事	筑紫農業協同組合	組合長	白水 清博
28	監事	春日市小中学校PTA連絡協議会	会長	宮崎 泰三郎 (2018年度) 園木 崇嗣 (2019年度)

● 専門委員会

No.	氏名	所属団体等名	No.	氏名	所属団体等名
1	秋吉 包雄	春日リトルラグーズクラブ	10	中嶋 浩一郎	春日市商工会
2	有馬 総志	春日市商工会	11	西村 英五郎	春日リトルラグーズクラブ
3	井筒 康貴	つくし青年会議所	12	根之木 武志	福岡県ラグビーフットボール協会
4	井口 謙氏	春日市商工会	13	野田 孝則	P-FACTORY
5	井村 仁志	春日リトルラグーズクラブ	14	福山 隆一郎	つくし青年会議所
6	衛藤 大地	春日市商工会	15	前田 健之輔	つくし青年会議所
7	吉上 耕平	九州電力(株)	16	松本 弘樹	春日市ラグビー協会
8	クリス フリン	春日リトルラグーズクラブ	17	武藤 孝史朗	つくし青年会議所
9	筒井 洋貴	つくし青年会議所	18	山口 伸之	福岡県ラグビーフットボール協会

● タグラグビー教室関係者（順不同）

九州電力キューデンヴォルテクス	(選手) 本村光章、大野和真、齋藤剛希、高屋直生、小森光太郎、中尾康太郎、浦真人 (OB) 竹内俊二、中村嘉宏、吉上耕平、森田啓介、松尾健一、松添健吉 (スタッフ) 坂板剛、山口雄一
宗像サンックスブルース	(選手) 濱里祐介、今村雄太、屋宜ベンジャミンレイ、鶴岡怜志、金堂礼 (スタッフ) 渡邊敏行、松園正隆、加古川雅嗣、向井清一
コカ・コーラレッドスパークス	(スタッフ) 有田将太、渡辺郷、築城昌拓、香月武、上本茂基

● 折り鶴作成者

春日市内全小学生

● メッセージボード制作者、アイルランド大使セミナー参加者

春日市内全中学校の美術部及び生徒会

● スポーツボランティアSCRUM KASUGA (50音順)

相川みどり、赤迫真紀、秋山温土、安部未来、石橋第一郎、石原綾子、井上萌香、岩崎俊作、岩本晃、内田有香、浦田健一、遠藤龍雄、大淵充博、奥晴乃介、奥福美、奥園健治、尾割勝廣、賀来悦子、貴島みなみ、木戸聖歌、久我麻梨恵、久我里香、小島伊織、小宮稜花、酒見日和、迫田優、佐澤キャロリーヌ、佐澤卓哉、柴田みさお、島村里歩、杉紋佳、杉谷孝幸、杉谷宏子、鈴木愛唯、瀬川小百合、副田美香、高木紫苑、高本栄子、竹下涼華、田淵愛子、知北明美、出口豊、手島風海、徳島勇大、鳥飼なるみ、長浦善三来、中尾美香、永田美和、中村美優、南嶋健心、西村萌、野田美沙、畠中健司、濱本恵里、林龍、原梨乃、判野文香、平島紀美香、廣渡さくら、藤崎達也、藤野鈴子、本郷京子、本郷賢和、牧山侑加、松尾志郎、松田英穂、松本皓太郎、松本璃咲、三島一花、宮原潔、森本裕二、森山善彦、矢富愛佳、柳井かほる、矢野美華里、山口佳音、山口洋子、山下佳代、山村洋一、横尾来依、吉田龍樹、脇山すみれ、渉華菜

● 支援職員

No.	部	課	氏名
1	経営企画部	秘書広報課	清水 満得
2	経営企画部	秘書広報課	小蘭 正剛
3	経営企画部	財政課	三田寺 洋幸
4	総務部	総務課	有吉 基樹
5	総務部	人事法制課	渡邊 潤
6	総務部	管財課	松井 淳
7	市民部	税務課	金堂 堯人
8	市民部	納税課	川邊 靖子
9	市民部	市民課	大野 哲也
10	健康推進部	国保医療課	荒井 雄介
11	健康推進部	高齢課	米倉 直道
12	健康推進部	高齢課	石丸 史也
13	健康推進部	健康スポーツ課	江口 泰斗

No.	部	課	氏名
14	福祉支援部	保護課	三重野 通和
15	福祉支援部	子育て支援課	岡村 由加里
16	福祉支援部	こども未来課	境 晃平
17	地域生活部	地域づくり課	八和田 美咲
18	地域生活部	環境課	吉本 向日葵
19	地域生活部	安全安心課	木村 太郎
20	都市整備部	都市計画課	柳沢 大貴
21	都市整備部	道路管理課	松崎 裕信
22	都市整備部	下水道課	松本 久幸
23	教育部	教務課	林 由梨奈
24	教育部	教務課	竹添 好
25	教育部	地域教育課	藤野 頌子

● 施設整備協力

No.	部	課	氏名
1	総務部	管財課	山下 靖雄
2	総務部	管財課	油谷 涼
3	都市整備部	都市計画課	平井 和哉

No.	部	課	氏名
4	都市整備部	都市計画課	堀 祐輔
5	都市整備部	都市計画課	東 佳介
6	都市整備部	道路管理課	赤木 喜雄

● 春日市 RWC 実施本部事務局

No.	役職名	職名	氏名
1	本部長	市長	井上 澄和
2	副本部長	副市長	後藤 俊介
3		教育長	山本 直俊
4	事務局長	健康推進部長	佐々木 康広
5		経営企画部長	石橋 徹
6		総務部長	内田 賢一
7		市民部長	渡辺 厚子
8		福祉支援部長	高瀬 光弘
9		地域生活部長	猪口 功
10		都市整備部長	黒田 一輝
11		教育部長	神田 芳樹

No.	役職名	職名	氏名
12		議会事務局長	緒里 哲司
13	事務局次長	健康スポーツ課主幹	岩隈 和則
14		健康スポーツ課長	貴島 宏一
15		健康スポーツ課	大瀬 玄德
16		健康スポーツ課	小嶋 健朗
17		健康スポーツ課	山崎 隆博
18		健康スポーツ課	岩本 慎平
19		健康スポーツ課	松井 貴之
20		健康スポーツ課	竹内 慎二
21		健康スポーツ課	影田 奈都美
22		健康スポーツ課	菅野 順子 (J)



ラグビーワールドカップ[®]2019™
公認チームキャンプ地・春日市実行委員会